



生育は昨年より10日程度進んでいる状況です。この時期の着果過多は小玉果多発の一因にもなります。ふじの結実は概ね確保されています。仕上げ摘果は“いつもより10日早い”意識のなかで進めてください。今回は梅雨期間の重要な予防散布になります。天候が不安定な時期ですので、晴れ間をみてできるだけ前倒して散布を実施してください。

りんご

6月中旬の薬剤散布（前回より15日後）

散布時期：6月15～20日

散布薬剤：水

100ℓ

展着剤

10ml *注意事項②参照

シトラノフロアブル

100ml（45日前、3回） *注意事項①、②参照



スプラサイド水和剤

66g（30日前、2回） *注意事項④参照

スイカル

100g（カルシウム剤）

散布量：10a当り 600ℓ

対象病虫害：炭そ病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類、クワコナカイガラムシ、リンゴワタムシ他

散布日：6月 日

散布量： ℓ

注意事項

- ① シトラノフロアブルは収獲45日前規制のため、極早生（恋空等）には飛散しないようにする。
- ② シトラノフロアブルに代えて、オキシラン水和剤500倍（14日前、4回）でもよい。
- ③ スプラサイド水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ④ ダニ類早期抑制対策：ダニゲッターフロアブルを加用する。尚、ぶどうに飛散すると新梢停止等の薬害が生じる場合があるので注意する。
- ⑤ 枝腐らん病対策：トップジンM水和剤1000倍（前日、6回）を加用する。
- ⑥ 炭疽病対策：6/25～30頃にオキシラン水和剤500倍（14日前、4回）を特別散布する。
- ⑦ 6月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避ける。

◆ 次回（7月上旬）薬剤散布予定：7/1～5
梅雨最盛期の褐斑病・炭そ病やシンクイムシ類対象の薬剤散布

◆ 次頁もお読みください。（殺ダニ剤の選択・葉面散布資材使用例記載）

りんご殺ダニ剤の選択について

○：効果ある △：効果やや劣る ×：効果ない

薬剤名	倍率	使用基準	使用回数	IRACコード	種類に対する効果		ステージに対する効果		
					リンゴハダニ	ナミハダニ	卵	幼若虫	成虫
ピラニカ水和剤	2000	21 日前	1 回	21	○	×	○	○	○
カネマイトフロアブル	1000	7 日前	1 回	20	○	○	○	○	○
マイトコーネフロアブル	1000	前日	1 回	20	○	○	△	○	○
オマイト水和剤	750	3 日前	1 回	12	○	○	○	○	○
コロマイト乳剤	1000	前日	1 回	6	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	前日	1 回	23	○	○	○	○	△
スターマイトフロアブル	2000	前日	1 回	25	○	○	○	○	○
ダニサラバフロアブル	1000	前日	2 回	25	○	○	○	○	○
ダニコングフロアブル	2000	前日	1 回	25	○	○	○	○	○

① 殺ダニ剤ローテーションについて（H30）

7 月中旬（7/15～20 頃）：ダニコングフロアブル（中期的抑制効果あり・残効 14 日程度）⇒
8 月上旬（8/1～5 頃）：コロマイト乳剤 1,000 倍（速効的・成虫に効果高い・残効短い）⇒
8 月中旬（8/15～20 頃）：オマイト水和剤 750 倍（成虫に効果あり・残効やや短い）

- ② ダニサラバ・スターマイト・ダニコングは同一薬剤系統である。抵抗性回避のため、いずれかを年 1 回のみ使用とする。
③ ダニゲッター（ダニサラバ）は成虫に対してやや遅効的效果を示す。散布 7 日後以降に効果が発現する。

6 月の葉面散布資材使用例

苦土欠乏症状等改善、健全葉育成を目的に各資材を選択使用してください。（定期散布農薬と混用可能）

*N-窒素、P-リン酸、K-カリ、Mg-苦土、Mn-マンガン、B-ホウ素

商品名	保証成分量	使用目的	使用時期	倍率(倍)	価格／規格	600 リットル価格
グリーンデイズ	水溶性苦土 16% 水溶性マンガン 9.0% 水溶性ほう素 2.5%	苦土等補給 葉の健全化 品質向上他	結実後～ 6 月下旬	1000	1,491／1 kg	895 円
ビックマグ	水溶性苦土 23%	苦土補給 葉の健全化	結実後～ 6 月下旬	1000	1,146／1 kg	688 円
オルガミンDA	窒素全量 0.11% 水溶性苦土 4% 水溶性ほう素 0.7% 水溶性加里 0.11% 水溶性マンガン 0.25%	光合成促進 品質向上 等	結実後～ 収穫前	1000	3,666／10 15,552／50	2,200 円（10 ） 1,866 円（50 ）